

KMユニテッドの求人広告用に撮影された写真。伝説の塗装職人として知られる福原好雄さんと前出の浦西さん。広告では、二人の真ん中に「国の宝にならんか。」というコピーがつけられた



ンの密度が高まったことです。互いに違う文化や言語で育ってきていることを認めた上で、自分が伝えたいことを相手に伝えるまで話すという習慣が定着しました。

外国の人たちが応募してくるようになってからは日本語学習の支援をするようになりましたし、個室の寮もつくりました。環境を整えれば人材はたくさんいるのです。

職人技を形式知で残す「技ログ」の反響

一七(平成29)年に竹延の三代目社長に就任した。その頃からITを活用した教育システムを模索するようになる。

やがてそれは職人技を動画として残す「技ログ」というスマホを使ったプラットフォームに成長し、現在は三三〇〇を超えるコンテンツを無料で見ることができるようになる。

「技ログ」のきっかけは?

竹延 最初は現場の職人と事務所

竹延 はい。動画にしておけば残ります。社員教育のためというこ

ともありましたが、福原さんの記録を残す義務も自分にはあると思うようになりました。それは福原さんが職人として培ってきた「暗黙知」を、誰もがわかる「形式知」に変えることにもなるはずなんです。

——その記録は竹延ばかりではなく、塗装の世界の宝になりますね。

竹延 そう思います。そうして始めた「技ログ」が塗装だけではなく建設の他の職種にも広がって、いまではコンテンツが三三〇〇く

らいになっています。

——「技ログ」を見れば誰でも腕を磨けるというわけですね。

竹延 そうです。なかには「会社のノウハウが流出する」と言う人もいますが、そんなことはありません。いま出しているのはどこでもやっている、本来みんながやっているべきレベルのものなんです。

——今後、力を入れようとしておられるのはどんなことですか?

竹延 一つは福原さんの技能をすべてAI(人工知能)に覚えさせた「フクハラ」という技能伝承ロボッ

トをつくること。もう一つは「建設アシスタント」という新しい職域を提案して広げていくことです。

建設アシスタントは、図面から数量を拾って積算したり、現場の記録写真を整理したり、現場監督のアシストをする仕事です。こうした助けがあると現場監督が本来の仕事に専念できます。派遣事業ですが、お客さんのところに行くのは週に一回くらいで、後はテレワークでうちの会社や自宅でも仕事ができるのです。このコロナ禍の中で、CAD(コンピューター

にいる福原さんをSkypeでつないで、現場の作業を見ながら「そこは斜めに塗れ」とかやっていったんです。「斜めに塗れ」と言っても、刷毛をどう斜めにするのか伝わらないんです。福原さんは自分が刷毛を寝かせる角度は何度だろうといろいろ考えて、やがて「刷毛を二〇度の角度に寝かせるんや」と言うようになっていきました。教えるほうもトレーナーとして成長していったわけです。だけど、福原さんはすでに七〇歳を超えていました。いつまでもトレーナーとして職人を育ててもらえないだろうと思うようになったんです。

——福原さんの技能を残したいと?



「技ログ」を紹介する特設サイト

による設計)の技術を持っている人の新しい職域になっていくのではないかと考えています。

——最後に経営者として心掛けていることをお聞かせください。

竹延 私は、いい会社を「頑張っている人が成長でき、頑張っている人が報われる会社」だと考えています。そういう会社にするために、まずできることから動く。いろんな人を見ていて思うのは、すぐに行動できる人は少ないということです。結局、結果を出せるかどうかは、やるかやらないかだけだと思います。

写真提供 株式会社竹延

なかのまち・あらた
1955年生まれ。ルポライター。月刊誌などにインタビューやルポを多数発表している。

〈会社概要〉

株式会社竹延

創業/1950年 業種/塗装業

従業員数/約250名 資本金/1億円

本社所在地/大阪府東区

株式会社KMユニテッド

設立/2013年 業種/建設塗装工事業

従業員数/51名 資本金/1500万円

本社所在地/京都市左京区



志の高いベンチャー企業の経営者を称える「Japan Venture Awards 2019」で、KMユニテッドは「中小企業庁長官賞」を受賞。受賞者ブースで社員と共に記念撮影



地元の子どもたちを招いて開催した「お仕事勉強会」の様相